



『サザエさん』第2巻
姉妹社 初版発行年 昭和23年4月

「サザエさん」に菊池寛登場!

日本初の女性漫画家として昭和を駆け抜け、現在も愛される数多くの作品を残した、長谷川町子（大正9年1月30日～平成4年5月27日）。そんな長谷川町子は、菊池寛を「サザエさんうちあけ話」（『朝日新聞』昭和53年4月～11月）で描いています。描かれた寛は、可愛らしく、少しドジ。でも、長谷川町子はそんな寛を、とても尊敬していたことが感じられます。

町子と寛に直接の交流があったかは定かではありませんが、三姉妹であった町子の姉と妹は、寛と縁がありました。姉・毬子は画家を目指しており、挿絵画家として寛に画才を見込まれます。そして寛の「女性の戦ひ」（『婦人倶楽部』昭和13年1月～昭和14年5月）で挿絵画家デビューすると、ほかにも多数の作家の挿絵を描くようになっていきます。一方、妹の洋子は文才を見込まれ、無試験で文藝春秋社に入社しました。

今回の展示では、長谷川町子の自伝的作品である「サザエさんうちあけ話」を中心に、長谷川町子の貴重な直筆原稿・原画を展示し、鮮やかな町子の仕事と、菊池寛と長谷川家の関りをご紹介します。



おエ、どんな先生? どんなお話?

「サザエさんうちあけ話」第六話（昭和53年5月28日『朝日新聞』日曜版掲載）原画
画像すべて長谷川町子美術館提供

Special talk

「懐かしくて新しい、長谷川町子の世界」

9月28日（土）13:30～15:00

講師：川口淳二氏（長谷川町子美術館 館長）

橋本 野乃子氏（長谷川町子美術館 副館長、学芸部長）

会場：サンクリスタル高松 3階 視聴覚ホール（入場無料、予約不要）※先着 200 名様
長谷川町子・毬子姉妹と姉妹社で共に働いた川口館長と、長谷川町子作品の調査に長年
あたってこられた橋本副館長による貴重なお話を、この機会にぜひ!

長谷川町子美術館の
素敵なグッズたちもやっています!



グッズ制作・提供：株式会社East

※入館料・グッズ共に、現金のみの取り扱いです。

